

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2007～2010

課題番号：19202010

研究課題名(和文) 五山版を中心とする中世刊本の研究—中世出版史の再構築に向けて—

研究課題名(英文) A Study of Printed Books in Medieval Japan Centered on Gozan-ban
—For Reconstruction of Medieval Publishing History

研究代表者

落合 博志(OCHIAI HIROSHI)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：50224259

研究成果の概要(和文)：

本研究では、中世日本の刊本、特に五山版(主に禅宗の寺院で出版された本)を対象として、日本国内及び海外に存在する原本を調査して書誌データを採取し、それに基づいて五山版序跋・刊記集成、中世出版年表、五山版所在目録を作成するとともに、五山版の持つ様々な問題について考察した。具体的には、各伝本の版本としての位置付けと資料的価値、同時代における五山版の受容、五山版と中国・朝鮮刊本との関係等であり、これらを通して、五山版の日本の出版史における意義や、文化の発展に及ぼした役割などについて、多くの新しい知見を得た。

研究成果の概要(英文)：

In this study, we investigated printed books of medieval Japan, especially Gozan-ban (books printed mainly at Zen temples), existing in Japan and foreign countries, and collected bibliographical data. Based on it, we made compilation of forewords, afterwords and colophons of Gozan-ban, chronological table of publishing in medieval Japan catalog of existing copies of Gozan-ban, and considered various problems about Gozan-ban, concretely value of each copy reception of Gozan-ban in the same period, relations with printed books of China and Korea. Through these, we got much new knowledge about the significance of Gozan-ban in Japanese publishing history and the role in cultural development of Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	7,500,000	2,250,000	9,750,000
2008年度	6,400,000	1,920,000	8,320,000
2009年度	6,400,000	1,920,000	8,320,000
2010年度	5,368,842	1,860,000	7,228,842
年度			
総計	25,668,842	7,950,000	33,618,842

研究分野：日本文学、書誌学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学・中国文学・中国哲学・仏教学・書誌学・日中交流

1. 研究開始当初の背景

日本は文化国家と言われながら、文化遺産としての過去に出版された書物の総合年表は

未だ作成されていない。それぞれの時代の文化とその形成基盤を知るには、その当時出版されていた書物の全体像を見渡すことが必須

となる。

国文学研究資料館では、科学研究費の交付を受けてまず江戸時代初期60年間の出版革命の時期と称すべき期間の年表作成に着手し、平成18年3月に成果を公開した。この研究に続けて、遡って中世を対象に選択した理由は、この時代が日本の出版史の萌芽期から発達期に当たっており、版本とその底本となった写本の関係など、江戸時代末に至るまでの書物の出版に関わる基本的な問題がここに淵源していること、また、版本を媒介とした中国・朝鮮からの文化の移入とその後代への影響という大きな問題に繋がる点で、文学史及び文化史上特に重要な位置を占めることによる。

中世以前の古版本に関する纏まった研究としては、夙に大屋徳城著『寧楽刊経史』（大正12年刊）、藤堂祐範著『浄土教版之研究』（昭和5年刊）、水原堯栄著『高野版の研究』（昭和7年刊。大正10年刊本の改訂）がありそれぞれ有益な成果であるが、時代も古く今では不十分な点がある。また、いずれも対象が限られており、古版本全体を俯瞰し得る研究にはなっていない。古版本研究の分野における過去の最大の収穫は川瀬一馬著『五山版の研究』（昭和45年刊）で、五山版を直接の対象としながら、広く中世の出版史全体を視野に入れた記述がなされている点に上掲の諸書にない特色がある。この書は資料を全国に博捜し、図版を豊富に掲出した優れた研究書であり、現在も五山版を初めとする古版本研究の基礎文献として学問的価値を失っていない。

ただし、同書の発行から36年が経ち、その間に各地の文庫・図書館の蔵書目録の公刊、寺院の経蔵調査の実施、各地方における文化財調査の進展等による、新出伝本や新種の版本・板木の発見など新たな古版本資料の所在情報が続いており、今やこの時代の出版物について総合的に調査研究し直す時期に来ている。そこで上記に代表されるこれまでの古版本研究の成果を踏まえつつ、新たな中世出版史を構築するための土台として、本研究を計画した。

2. 研究の目的

日本の文化を正しく理解し評価するためには、それぞれの時代に出版された書物の、製作及び享受の実態を明らかにすることが極めて重要かつ有効である。それらの書物の原本を実地に調査し、専門的立場から分析してその結果を体系的に記述することは、その時代の文化の特色を目の当たりに示すと同時に、人文科学における多くの分野の研究者の研究資料として活用される基盤的成果となり得る。

本研究は、平成14～17年度に科学研究費補助金の交付を受けて行った「江戸時代初

期出版年表の作成」（基盤研究（A）（一般）、研究代表者岡雅彦〔平成14～15年度〕）、落合博志〔平成16～17年度〕）に続くもので、平安時代後期から室町時代末期末文禄元年（1592）までに出版された版本を対象とし、その出版の背景や文化史的意義について研究を行うとともに、出版史の基礎資料としての刊記及び序跋の集成と総合的出版年表の作成を目指すものである。ただし、対象の広さを考慮し、本研究においては古版本の中で江戸時代の出版の有力な母胎となったと考えられる五山版を中心に据え、その網羅的な調査研究を果たすことを第一の目標とする。即ち五山版については、所在情報に基づいて出来る限り原本を直接調査し、刊記・序跋を含む書誌データの採集を行い、いくつかのテーマを立てて研究を展開する。また、他の古版本については従の扱いとし、所在情報、刊記情報等の収集に主眼を置きながら可能な範囲で原本調査を行い、将来における総合的な中世出版史研究に備える。

3. 研究の方法

前記の構想の下での具体的な研究及び作業として、以下のものを行う。

（1）五山版序跋・刊記集成の作成＝以下の研究課題等の資料とすることを兼ねて、五山版の序跋・刊記及び刊行助縁者名簿を翻刻して集成する。なお、序跋については原本のほか、禅僧の文集類からも採録する。

（2）序跋及び助縁者名簿の分析による出版の背景の研究＝序跋等から読み取れる、当該版本の出版の背景について考察する。

（3）出版に関わった人物の研究＝ここでは特に中国から渡来して五山版の刊行に関わった禅僧、及び中国から渡来した刻工に注目し、その中国での活動と渡来の理由などを考察する。

（4）五山文学と出版の関わりの研究＝五山僧の著作における五山版の利用のあり方を分析し、出版が当時の学問・文学にどのような影響を与えたかを考察する。

（5）五山版における中国及び朝鮮刊本の影響の研究＝五山版は中国刊本・朝鮮刊本の覆刻ないし翻刻の多いことが特色であるが、その影響関係について具体例に即して考察する。

（6）中世出版と江戸初期出版の関わりの研究＝江戸初期における、五山版を覆刻または翻刻した版本について調査し、底本との関係などを考察する。

（7）五山版以外の地方版の所在調査＝文化財調査の進展等に伴い、新たな発見が相次いでいる中世における地方版について、所在情報を集成する。

（8）中世出版年表の作成及び五山版所在目録の作成＝五山版を初め中世の古版本の刊記・序跋の情報に基づいて、平安後期から室

町末期までの総合的な出版年表を作成する。また、五山版について知り得た限りの伝本の所在を一覧し、五山版所在目録を作成する。

4. 研究成果

(1) 本研究の基礎となる五山版の原本調査については、グループ調査及び個別的調査の形で、交付期間内に可能な限り実施した。調査に当たっては専用の書誌カードを使用し、基本的な書誌事項を記録するとともに、特徴などを注記した。

グループ調査としては、大東急記念文庫・布施美術館・京都大学人文科学研究所・天理図書館・お茶の水図書館成實堂文庫等において行い、前三箇所については対象となる資料全点の調査を終了した。

また個別的調査は、大英図書館・アメリカ議会図書館・京都府立総合資料館・京都大学附属図書館・大谷大学博物館・京都市の瑞光寺及び勸修寺・叡山文庫・名古屋市蓬左文庫・西尾市立図書館岩瀬文庫・香川県善通寺市の善通寺等において実施した。

これらの調査を通して、個々の原本に関して従来指摘されていない様々な問題点が浮かび上がり、その一部は既に論文等において報告・検討している。

(2) 並行して研究会を開催し、研究組織のメンバー各自が五山版や中世刊本に関し調査等を通して得た知見を発表し、相互に討議を行った。具体的には以下の通りである。

①2007年8月31日

岡崎久司「一条兼良の見積書」：室町時代の興福寺における経典の印刷の実態を伝える資料を紹介し、中世の寺院における印刷について具体例に即して考察した。

堀川貴司「岩瀬文庫蔵『勅脩百丈清規』について」：アメリカ議会図書館所蔵本と比較しつつ、岩瀬文庫所蔵五山版『勅脩百丈清規』の版種の再検討を行い、川瀬一馬氏『五山版の研究』の記述を訂正した。

②2008年1月29日

住吉朋彦「埋もれた五山版」：国内外の図書館において、誤って中国刊本や朝鮮刊本として登録されている五山版について報告・検討。既存の報告に漏れた「埋もれた五山版」の発掘と、漢籍の五山版研究に当たって中国・朝鮮刊本を含む多くの本を比較することの必要性を認識させる成果であった。

③2008年8月13日

藤本幸夫「朝鮮の刻手について」：朝鮮版に見られる刻手(刻工)について、記載法の特色や、刊年・刊地推定における有効性などを五山版の場合と比較しつつ考察した。

④2008年8月14日

落合博志「墨蹟と五山版—東福寺版『聖一国師語録』を例に一」：東福寺刊五山版『聖一国師語録』に模刻された無準師範尺牘2通の

うち1通の原本が畠山記念館に現存することを指摘し、現存しない墨蹟を序跋等の形で模刻したものがしばしば見られる点で、墨蹟資料としての五山版の序跋に注意すべきことを述べた。

⑤2009年3月4日

堀川貴司「大英図書館所蔵五山版について」：大英図書館所蔵五山版のうち『景德伝灯録』3点を取り上げ、既刊の目録の記述の誤りを指摘するとともに、大東急記念文庫所蔵本とも比較しつつ伝本上の位置付けを行った。

⑥2010年8月20日

村木敬子「版本『五味禅』・『四部録』を巡る諸問題」：京都大学人文科学研究所・天理図書館・大谷大学博物館の調査を踏まえ、五山版から古活字版・整版に至る『五味禅』・『四部録』、特に所収の「十牛図」諸本の系統について整理・検討した。

岡雅彦「書林余氏刊本について」：江戸初期における「書林余氏同梓」という刊記を持つ一群の刊本の存在を指摘し、中国における余氏刊本との関係や、福建省の余氏が江戸初期に日本に渡って出版に携わった可能性について考察した。

以上の多くは、論文等の形でその内容を公表済みである。なおほかにも、研究組織のメンバーが本研究に関わって発表した論文等は少なくなく、その主なものは5. に掲出している。

(3) 本研究においては、五山版等の原本調査を行う一方で、五山版ほか中世刊本及びその関連資料の原本収集も行った。中では、これまで知られていなかった新出の五山版である永享八年栖雲菴刊『金剛般若波羅蜜経』を見出し、国文学研究資料館に収蔵したことが特記される。同書は扉絵を有する折本形態の経本で、恐らく中国(元末頃)刊本の覆刻かと推定されるものである。また美濃瑞龍寺版『碧巖録』と文明十三年刊薩摩版『聚分韻略』の購入により、五山版の中でも特に版種の多い両書の伝本調査に際して有益な比較資料を手許に置くことができ、研究の推進に役立ったことを付け加える。

(4) 五山版序跋・刊記集成の作成については、上記の調査等を通して収集した写真をも活用して作業を進め、交付期間内に基本的なデータの入力をほぼ終了した。これについては、近時各所蔵者によるインターネット上への画像公開が進行しつつあり、それを利用することにより作業の効率を高めることができた。

(5) 中世出版年表及び五山版所在目録についてはそれぞれデータを蓄積中である。特に後者は、『五山版の研究』を基礎に逐次追補を行っており、その数は古書目録所載のものを含めると100点近くに及ぶ。

なお、五山版序跋・刊記集成、中世出版年表、五山版所在目録は、更にデータを集め整理した上で、追って公表する計画である。

(6)「3. 研究の方法」の(2)～(5)の各項についても、それぞれ論文等で発表を行っているか、または今後発表する予定である。また(6)については、研究組織のメンバーのうち4名が編集に関わり、2011年2月に刊行した『江戸時代初期出版年表』に成果が生かされている。この年表は、本研究に先行する前記「江戸時代初期出版年表の作成」科研に基づくものであるが、本研究による五山版ほか中世刊本の影響下にある江戸初期刊本の調査成果も採り入れており、将来における中世出版年表の公刊に向けた足掛かりとしても意義は大きい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 25 件)

- ① 村木敬子、宗存版「『四部録』小攷一十牛図」を中心に、美学美術史論集、査読有、第 19 輯、2011、pp. 484-506
- ② 堀川貴司、建仁寺両足院蔵『新選分類集諸家詩巻』付・同系統他本による補遺—『新選集』『新編集』研究その一、斯道文庫論集、査読無、第 45 輯、2011、pp. 53-58
- ③ 陳捷、關於清駐日公使館借鈔日本足利学校蔵《論語義疏》古鈔本的交渉、版本目録学刊、査読有、第 2 輯、2010、pp. 375-408
- ④ 落合博志、善通寺の聖教と説話資料・文学資料、説話文学研究、査読無、第 44 号、2009、pp. 137-145
- ⑤ 住吉朋彦、日本漢学史における五山版、中国—社会と文化、査読無、第 24 号、2009、pp. 224-249
- ⑥ 堀川貴司、五山における漢籍受容、中国—社会と文化、査読無、第 24 号、2009、pp. 211-223
- ⑦ 村木敬子、長頭丸刊行の「細字法華経」—江戸前期の版経に甦った宋元の文化、アジア遊学、査読無、第 122 号、2009、pp. 171-183
- ⑧ 小川剛生、『韻鏡』の悪戯—受容史の一断面、アジア遊学、査読無、第 122 号、2009、pp. 134-141
- ⑨ 落合博志、墨蹟と五山版—宋代禅僧等書蹟資料としての五山版の序跋、アジア遊学、査読無、第 122 号、2009、pp. 99-105
- ⑩ 住吉朋彦、旧刊『聯珠詩格』版本考、斯道文庫論集、査読無、第 43 輯、2009、pp. 215-264
- ⑪ 堀川貴司、瀟湘八景詩の抄物、アジア遊学、査読無、第 116 号、2008、pp. 54-60

- ⑫ 堀川貴司、三条西家旧蔵『経国集』紙背文書について—公条と月舟寿桂、国語と国文学、査読有、第 85 卷 8 号、2008、pp. 28-40
- ⑬ 小川剛生、太田道灌の伝記と和歌、文学、査読無、第 9 卷 3 号、2008、pp. 53-69
- ⑭ 住吉朋彦、『翰墨全書』版本考、斯道文庫論集、査読無、第 42 輯、2008、pp. 231-348

[学会発表] (計 5 件)

- ① 藤本幸夫、高麗の出版文化、仏教大学シンポジウム「日本仏教と高麗版大蔵経」、2010 年 10 月 30 日、仏教大学宗教文化ミュージアム
- ② 岡雅彦、江戸初期の版本について、國學院大學国文学会春季大会、2010 年 6 月 26 日、國學院大學 120 周年記念 1 号館 1105 教室
- ③ 陳捷、宋代寺院の出版に関する一考察、「中国東南部の出版文化と日本の出版文化」シンポジウム、2009 年 11 月 21 日、東京大学法文 1 号館 115 番教室
- ④ 小川剛生、洞院公定をめぐる書物—字書・部類記・未来記、京都女子大学宗教・文化研究所公開講座、2009 年 6 月 27 日、京都女子大学 J 校舎 525 教室
- ⑤ 堀川貴司、三条西家旧蔵『経国集』紙背文書について、和漢比較文学学会第 26 回大会、2007 年 9 月 30 日、慶應義塾大学

[図書] (計 7 件)

- ① 赤尾栄慶・興善宏・金文京・藤本幸夫ほか、京都国立博物館、建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究建仁寺両足院聖教目録Ⅲ、2011、555p
- ② 岡雅彦・落合博志・堀川貴司・和田恭幸ほか、勉誠出版、江戸時代初期出版年表、2011、706p
- ③ 堀川貴司、勉誠出版、書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む、2010、274p
- ④ 落合博志、慶應義塾大学出版会、慶應義塾図書館の蔵書(うち「江戸初期の出版事情一面—本能寺前版古活字版考・序説」)、2009、pp. 33-58
- ⑤ 小川剛生、山川出版社、中世の書物と学問、2009、120p
- ⑥ 住吉朋彦、韓国国学振興院、東アジアの木版印刷(うち「日本木版印刷の歴史—「かたぎ」と版本」)、2008、pp. 509-639
- ⑦ 張宝三・住吉朋彦、国立台湾大学出版中心、台湾大学図書館蔵珍本東亜文献目録日本漢籍篇、2008、190p

6. 研究組織

(1) 研究代表者

落合 博志 (OCHIAI HIROSHI)

国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：50224259

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者

岡 雅彦 (OKA MASAHIKO)

国文学研究資料館・名誉教授

研究者番号：20044729

(H19：研究分担者)

藤本 幸夫 (FUJIMOTO YUKIO)

麗澤大学大学院・言語教育研究科・教授

研究者番号：70093458

(H19：研究分担者)

堀川 貴司 (HORIKAWA TAKASHI)

慶應義塾大学・斯道文庫・教授

研究者番号：20229230

(H19：研究分担者)

陳 捷 (CHEN JIE)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：40318580

(H19：研究分担者)

和田 恭幸 (WADA YASUYUKI)

龍谷大学・文学部・准教授

研究者番号：20260002

(H19：研究分担者)

住吉 朋彦 (SUMIYOSHI TOMOHIKO)

慶應義塾大学・斯道文庫・准教授

研究者番号：80327668

(H19：研究分担者)

小川 剛生 (OGAWA TAKEO)

慶應義塾大学・文学部・准教授

研究者番号：30295117

(H19：研究分担者)

(4) 研究協力者

岡崎 久司 (OKAZAKI HISAJI)

早稲田大学・国際日本学研究所・客員教授

村木 敬子 (MURAKI KEIKO)

財団法人五島美術館・学芸員